右京区管理委員会学生選挙サポーターとは，「右京区大学地域に関する連携協定」（※）加盟の７大学と，立命館大学の学生から構成されており，昨今の若者の投票率低下を踏まえ，学生自身が選挙啓発に繰り出し，右京市民の政治に対する意識を高め，投票率の向上を目指し，平成 23 年度に設立された団体である。

参議院議員通常選挙，京都府知事選挙等の選挙において，啓発活動や投票事務を行い，選挙への知識や経験を積み重ね，様々な活動を行ってきた。

※右京区大学地域連携協定…京都市右京区に立地する７大学（京都外国語大学・同短期大学，京都光華女子大学・同短期大学部，京都嵯峨芸術大学・同短期大学部，花園大学）と右京区役所との間で，地域の活性化及びまちづくりの推進等に寄与することを目的として包括的な協定。（平成 23 年 11 月 4 日締結）

① 参議院議員通常選挙啓発活動

平成 25 年 7 月の参議院議員通常選挙目前で行われたのは, 区役所内, 駅前での啓発うちわ配布である。

サポーターとして初めての試みと経験に戸惑いながらも，多くの方はうちわを快く受け取ってくれ，日頃彼らが選挙になぜ行かないのかという点を話してくれた方もおり，たとえば，当日投票に行くのが面倒だと答えた方に期日前投票のことを話すと，そのような制度があるとは知らなかったと答える方もいた。啓発活動の第一歩として，自分の選挙に関する知識を再確認するうえでも相応しいものであったと感じる。

② ご当地 B 級グルメ模擬投票

区民が交流を深めるイベントとして毎年開催されている右京区民ふれあいフェスティバルにおいて，昨年から「どのブースの料理が最もおいしいか」ということを投票で決定するために，実際の選挙に使用されている投票箱で模擬投票活動を行った。

地域の方々に渡しているプログラムに，切り取れる投票用紙を用意し店舗の名前が貼られた各投票箱に投票してもらい開票及び集計を行った。

また，舞台上で各店舗の宣伝補助や，結果発表の司会を担当し，学生選挙サポーターが自ら意義を紹介することで，学生が選挙に意欲的であるということをアピールでき，地域の方により広く団体を知ってもらうための活動となった。

③ 山間部小規模施設視察

次に，右京区内の選挙事情や傾向について，我々学生選挙サポーターが深く知り，次なる啓発活動に繋げるため，右京区内の山間部である京北地域の投票所 10 箇所の内，3 箇所への視察を行った。

平成１７年に右京区と合併した京北は，高齢者が多く，投票所まで非常に遠い家屋もある地域でありながら，投票率は他の地域よりも高いという特徴がある。

京北地域の方々に話を伺うことで，投票日には近所の人同士が声を掛け合って投票所へ行ったり，冬は雪が多く積もるため，交通手段である車の通行のために道中を雪かきするなどの努力の結果，投票率が高いことに気付くことができた。

また選挙に対する意識の高さ，選挙の実情を知ると共に，市民と行政が目指すべき「選挙への意欲的

態度」とはどういうものかという具体例が学べた活動であった。

④　選挙出前授業

小学校 6 年生を対象とした選挙啓発出前授業を，平成 26 年 2 月に 2 校で実施した。

投票率の低下問題，特に若者である 20 後半～30 代の方々の投票率は高齢者に比べ大きな差があり，6 年生の親世代というのはまさにこの年代の方が多い。

そのため，この活動における目的は，生徒に対して選挙の大切さを学ばせるとともに，生徒が授業の中で学び感じたことを家庭に持ち帰り話をしてもらうことで，生徒とその親にも選挙に対する姿勢を改めて考えてもらうことだ。将来の有権者となる彼らへの啓発活動であるとともに，親世代にも政治関心，投票率向上という選挙啓発効果を間接的に期待した。

授業内容は，生徒が初めて触れる選挙というものに簡単で良いイメージのみを持ってもらい，また生徒自身が選挙とは大事なものだと気付くことができるよう，楽しんで学べる内容にした。楽しい体験であることで親との話も弾み，選挙に積極的に関わる姿勢を育てられると考えたためだ。

そのため，生徒が興味関心を持ち，分かり易く考えられるよう選挙劇を行った。またこの選挙劇に生徒達も参加できる模擬投票を実施し，生徒に選挙の身近さを意識させ，候補者をどう選ぶべきなのかという点についてより深く考えることを狙いとした。

開票後にはグループワークを行い，各学生選挙サポーターがグループの輪に入り，質問に答えるなど大学生と生徒の交流も行いながら，候補者をきちんと知らなければならないことや，選挙に行かなくてはならないことなどに生徒自身が気付くことができた。

最後に，学生選挙サポーターが伝えたかった選挙にとって大事な三つのこと「選挙に行く」「候補者のことをきちんと知って投票する」「人の意見に流されない、自分の意見を持つ」を紹介し，また，生徒の親世代が余り選挙に行かない世代であることをグラフで視覚的に伝えたり，今回学べたことを親と話し合ってほしい，という内容で締めくくった。

これらの出前授業を行った生徒の反応は、各実施小学校共に「難しいイメージが変わった」「選挙に行こうと思った」など，選挙への関心，イメージの向上が望めたように思う。

しかし，教師側の反応は，子供たちが楽しんだことや，選挙に行かないとどうなるか，など興味を持つことが出来るきっかけになったが，専門的な知識や劇の内容をもっと現実的なものにするべきだという意見を貰えた。

課題としては，全体的に簡単な内容であったため，現実の党や専門用語を増やすなどもう少し専門的なものにするという点と，大学生との交流をもっと欲していた生徒もいたため，グループワーク以外にも大学生と交流できる時間を作るという点が考えられる。

また次回は，生徒がきちんと親と話ができたかどうか，親とどのようなことを話し合ったかなど，親の意見も書くことができるようにした感想プリントを用意すれば，効果の視覚化が望め，活動の向上を期待できると考えた。

⑤　最後に

学生選挙サポーターが設立された当初，選挙に対して苦手，または漠然としたイメージしか持っていない学生は多かった。

しかし，実際に選挙現場での事務や啓発活動を繰り返すうち，選挙は自分の意思で国を良くしていくための重要な機会であり，その選挙が公平に行われるため様々な努力がなされていることを知ることができた。

昨年の活動を通して，私たち学生選挙サポーター自身の選挙に対する意識が変わるだけでなく，政治などにも普段から関心を持つようになり，今後，より啓発活動に力を入れたいと考えるようになった。この気持ちを忘れずに，今年度の活動にも取り組んでいきたい。